



## 小・中・高 不登校でも未来は開ける！

かつての泉中の卒業生の体験談です。つらくても温かい先生や友達に支えられ、しっかり歩き出されています。安心できる支えがあれば本人らしい本当の力がわいてくる、そんな勇気の出るエピソードです。



私は多賀小で高学年から学校に行きづらくなりました。前日に学校の準備をしても翌朝になるとなぜかお腹が痛くなるのです。親から「なんでいかれへんの？」ときかれても「わからへん」とこたえるしかありませんでした。元々、学校も友達も好きでしたが、当時、女の子の中で強い者に従うというカーストがあり、中心的な人がみんなを順番に無視していくいじめが引き金になったように感じます。頭では学校に行かないと、と思っても、心が拒否してSOS出していたんやなと今では思います。

泉中では、雰囲気も変わり少し行きやすく感じましたが、多賀から電車に乗る時は以前いじめていた子たちと一緒にいたのでビクビクしていました。そのうちに泉中でも女の子同士の無視が始まり、中2頃から学校に行けなくなりました。当時は別室登校などはなく、登校すれば教室に入るしかありませんでした。教室はしんどかったです。しばらく休んだ後、頑張って1日登校し教室に入るけれど、しんどくなってまた休む、の繰り返しでした。

遅れてしまった勉強は熱心な先生方に支えていただきました。数学の先生は、受験前までに苦手なことを克服してほしいという思いで、マンツーマンで丁寧に補習をしてくれ、最後まで責任をもって面倒みてくれました。数学がわかるようになり「学んで楽しい」と思えたのはこの先生のおかげです。中3の担任は若い男の先生でしたが、生徒と同じ目線でフラットにつきあってくれ、決して無理強いしない先生でした。やんちゃな子も含めてどの子に対しても一人の人間として丁寧に向き合ってくれ、誰一人として見捨てることはありませんでした。

そんな熱心な先生方に見守られて私は3年からほぼ休まず学校に行けるようになりました。同じ様にターゲットにされていた友達と辛い気持ちを分かち合い、「私だけじゃない」と思えたこと、他にも気の合う友達が増えて安心できるようになったことも大きかったと思っています。

高校は、いじめの中心になっていたグループを避ける為に公立を諦め、私立の女子高へ進みましたが、高校でもまた同じ様にターゲットにされ、順番に無視される等の行為を受け、行きづらくなりました。高2を留年し、2回目の2年生を頑張ろうとしましたが、続かず、1学期で自主退学しました。その時は緊張から解放されたほっとした気持ちでした。高校生活は嫌でしたが、バイトで同学年の仲間とわいわい盛り上がったり、遊びにいけたりしたことは楽しい思い出です。バイトは私にとって自分が認められる唯一の居場所でした。

その後はハローワークで正社員の求人を探して応募しました。履歴書には高校自主退学と書きましたが、簡単なテストと面接を受けて採用になり、正社員として就職することができました。仕事の内容はとてもやりがいがあり、天職や！と思えるほどでした。事情があり仕事を1度変えましたが、2度目の職場も正社員として勤務、結婚するまで続けることができました。

★次回は11/18(土) 10:00~11:30 玉泉苑にて開催♪

気になる子どものための親育ちの会「はるにれ」代表 巽 敦予

